

「四国河川技術伝承会」への取り組みについて

四国技術事務所
副所長 鷺津隆廣

1. はじめに

「四国河川技術伝承会」は、四国地方整備局の先輩諸兄が長年の業務の中で培ってきた貴重な知識経験を、個人的情報・財産として風化埋没させるのではなく、四国地域及び河川の貴重な文化・財産として、次世代に伝承していくとともに、最新の技術と相まって育み活かしていくことを目的に、平成18年3月に発足しています。

伝承会は、過去3年間に14回開催されていますが、現場のない四国技術事務所での開催は、今回が初めてであり、本誌では、その取り組みについて紹介します。

2. 開催概要

河川技術は、「経験工学の積み重ね」であり、この河川技術を若手職員の育成に寄与し、四国の新時代における質の高い河川管理及び施設の新設・改築等の社会資本整備の一助とすることから、以下のテーマにて平成21年12月10日に伝承会を開催しました。

1) 災害時の応急復旧に関する留意点 (H21 四国共通テーマ)

伝承者(3名)の方からテーマに沿った経験談(①災害対応に向けた体制づくり、②許可工作物の管理等、③直轄海岸保全施設の緊急復旧事例)を聴講しました。その中で、「災害時に状況に応じた的確な判断を即座にするのは難しく、対応の遅れや誤った判断に繋がりがねない。緊急対応時の体制や役割分担を予め決めておくことが重要である。」また、「常日頃から割栗石等、地域における材料を把握しておき、破堤予防等に活用する事が重要。」等の過去の経験を踏まえた貴重なご助言をいただきました。

また、四国の応急復旧用建設機材及び仮設資材の状況を踏まえながら、今後における災害時の応急復旧に関する課題や留意点について、忌憚のない意見交換をしました。

2) 技術者育成に向けた取り組み (事務所テーマ)

現在、本局及び事務所で取り組んでいる河川技術事例集と現場技術事例集(追加版)を紹介した後、各々の事例集のタイアップやPR手法など、今後、利活用しやすい土木技術事例集のあり方等について、気持ちの入った熱い議論を交わしました。

その後、四国技術事務所敷地内に設置している土木構造物実習施設を教材として、各種土木構造物(函渠、逆T型擁壁、橋梁、橋台、舗装、L型擁壁)の施工不良や設計ミスを防止するポイントを説明し、参加者の検査技術力の向上を図りました。

参考(1)河川技術事例集の作成手順 (H21.11末現在、作成済は①のみ)

①事例調査として河川技術者OB、職員の過去の体験や失敗例、留意点等を簡潔にとりまとめ
(事例数:31事例)

②事例調査で得られた事例の中から、河川技術者テキスト(案)として適した事例を抽出

③抽出された代表事例をもとに、体験レポートを作成

④体験レポートの記載内容について伝承会の助言を受け、河川技術者テキスト（案）を作成

参考(2)現場技術事例集（『現場の達人』等）の追加版作成手順

現場技術事例集については、H17年度より『現場の達人』（H16.3）として、四国技術情報提供システム（YTIS）に掲載（171題）し、また、『現場の達人』拡充版（59題追加）として、『現場の達人（Version2）』（H21.3）を四技イントラ「コミュニティ」コーナーに掲載しており、今年度中に追加版（約60題）を作成

①共通工、河川、道路、公園に仕分け（分類検索）し、各項目毎に役割（目的）・留意点を記述

②現場からの助言を記載（過去の経験及び参考資料を掲載）



伝承者（3名）の経験談



意見交換状況

3. 今後の課題

業界等から職員の技術力低下が指摘されており、技術力向上を目指して四国技術事務所では、各階層毎・工種毎・段階毎に備えるべき技術力をまとめた「技術力カルテ（案）」を作成するとともに、各種研修の講義の録画、現場技術事例集のリニューアル等に取り組んでいるところです。

しかしながら、技術力が低下した要因の一つには、定員削減及び業務の多様化などにより、若手技術者が日常業務の中で学ぶ機会が減少したことも、大きく影響していると考えています。

また、近年の公共事業に対する無駄論議や官公庁バッシングなどにより、工業高校や工業高等専門学校などの受験者数の減少傾向についても、土木業界全体で深刻な問題となってきています。

これらに対処するには、産学官が連携し、将来の展望を見据えた土木技術者の育成に取り組むとともに、建設業界を取り巻く社会環境の改善に取り組む必要があると考えています。

4. おわりに

技術力向上を目指すには、とにかく現場に足を運ぶという心構えが必要ですが、日常生活から生まれた伝承技術や応用知識を学ぶ必要があります。そのためには、業界等経験豊富な知識人との交流の場に積極的に参加することが重要と考えています。

今年度、河川部では現場技術力向上に向けて、各種の技術研究会を統括する「四国河川技術研究会（仮称）」の発足を考えられていますが、既存の技術研究会を活かしつつ、四国河川技術伝承会と連携し、若手技術者のレベルアップを図れる研究会にさせていただけるよう、よろしくお願いします。